

飲水思源

町長 松岡市郎

「元氣な証し」の住民力と発信力

写真甲子園と国際写真フェスティバルが近づいてきた。今年の写真甲子園には東日本大震災で大きな被害を受けた2校も出場する。次代を担う若者の熱い表現力が発表され、感動の渦へと巻き込まれる。新聞、TV、雑誌などでこれらのイベントが広く発信されるだろう。(広報配布時には一部終了しています)

先日、旭川のある会合で「マスコミは東川の一人勝ち」と揶揄した人がいた。連日新聞などに「東川」の名前が出てくるので、このような表現になったのだ。「晴れている日より東川の名前が出る方が多い」と言われるほど頻繁に登場している。住民も「周辺の人々が東川は元氣な町だと言っている」と誇りを持って話してくる。札幌の東川出身会では、1年間に全道に東川町が紹介された記事を切り抜き、拡大コピーしたものを掲示して誇らしく紹介してくれている。ふるさと・郷土を愛する人々がいる、というのはありがたいことである。

一方、東京では「町長さん、東川町には素晴らしい財産がたくさんあるでしょう。もっと宣伝してくださいよ」とご指導をいただく。北海道内と違って、全国に「東川」の名前が登場する機会は圧倒

的に少ない。全国の方々への情報発信となると容易なことではないが、写真の町事業を継続していることが高く評価され取り上げられるものも年々増えて来ている。「町長、東川町のこと、新聞、TVでみましたよ！」とメールや手紙をちょうだいしている。

この町を取材していただいている新聞記者の方々は、異口同音に「東川にはいつも何かがある。ニュースがある」とおっしゃる。それはおそらく、自然や文化・芸術など多分野で魅力があり、かつ積極的に特色ある活動している人々がいるからだろう。そして役場職員は「東川町の価値」情報を、情熱を持って発信してくれている。小さなことではあるが、名刺交換をさせていただいた方々には、私も電子メールで町の情報発信に努めている。

このように職員挙げて心がけてきた情報発信だが、個人的売名行為でやっている、などと投書する方もいると聞く。これは残念なことだ。

私たちが発信している情報は、「『写真の町』東川町」そのものを売名するためのPRなのだ。今後とも皆さんのご協力をいただき、全国、いや世界に向けて楽しく活力と魅力のある情報を発信していきたい。

文化交流館 新刊図書・ビデオ案内

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています

貸し出し期間は、図書は1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間です。返却期間を守りましょう(夜間返却窓口もご利用ください)。



シュレック・フォーエバー
(アニメ、DVD)
ポニーキャニオン

今や3人の子供を持つマイホームパパのシュレック。幸せ絶頂のはずが、自由奔放な“怪物”だった日々を懐かしみ、怪しげな魔法使いと一日だけ昔の生活に戻るという契約を交わしてしまう。異次元の世界へと送り込まれたシュレックが見たのは、自分が生まれていない世界だった。すべてを失ったこの世界で、再び愛する人と親友を取り戻し、無事元の世界に戻れるのか? (93分)



山のとしよかん(児童書)
肥田美代子/文、小泉み子/絵、文研出版/刊

ある日の夜、おばあさんが戸締まりをしようとしたとき、小さな声で「えほん…よんでください」と男の子が立っていました。おばあさんは、それから毎日その子にえほんを読み聞かせてあげました。しかしいつも夜にやってくる男の子をふしぎに思ったおばあさんは、男の子の帰るあとをついていきました。するとそこにいたのは…。



月の上の観覧車
(一般書)
萩原浩/著、新潮社/刊

もし人生が2度あれば、自分は許しを乞うのだろうか。逃げ出したかった寂しい故郷、守れるはずなどない約束。彼女が隠していた悲しみに、あのころも気づかぬわけではなかったのに…。月光の差し込む観覧車の中で、愛する人々と束の間の再会を遂げる老いた男を描く表題作ほか、もう取り戻せない時間の哀愴が胸を打つ8編。